<最終回>

大空と雑草の詩

（〃ガロ〃第十二作品）

<真実一路の旅なれど　真実鈴ふり思い出す>

山本有三著〃真実一路〃より

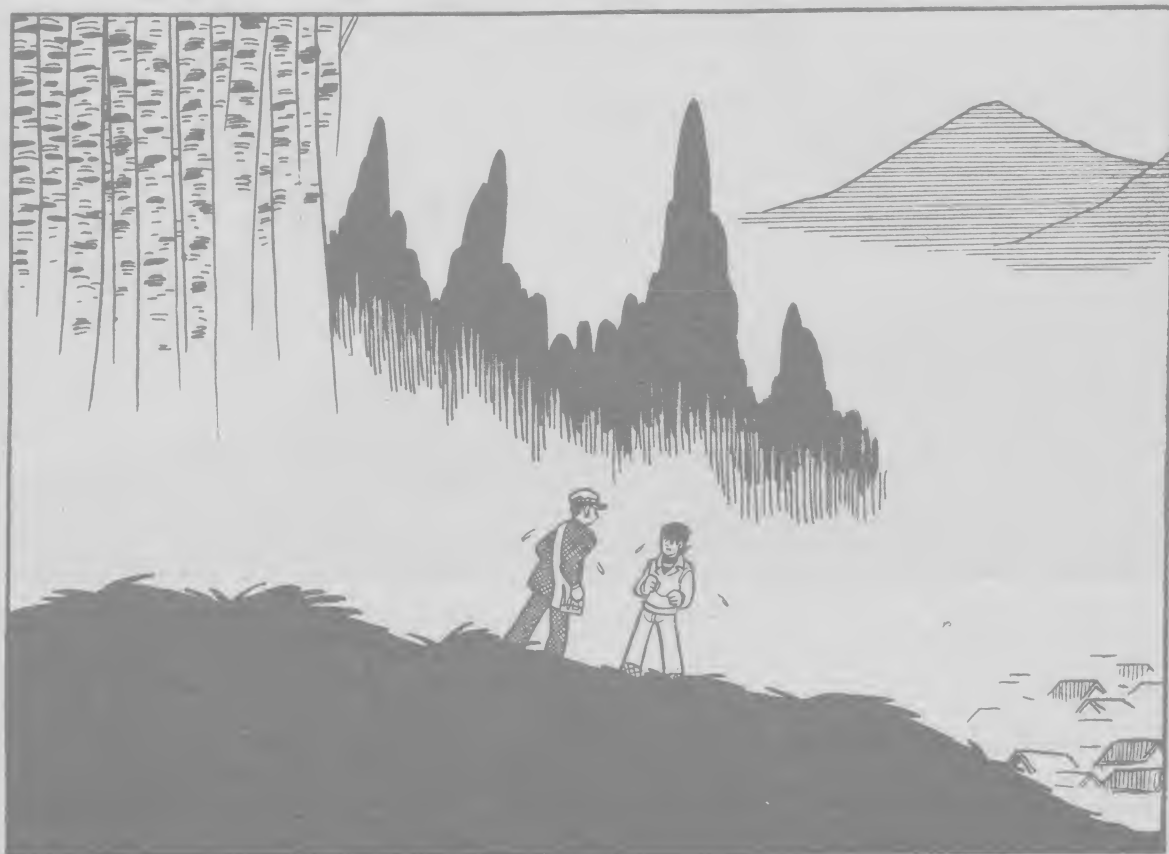
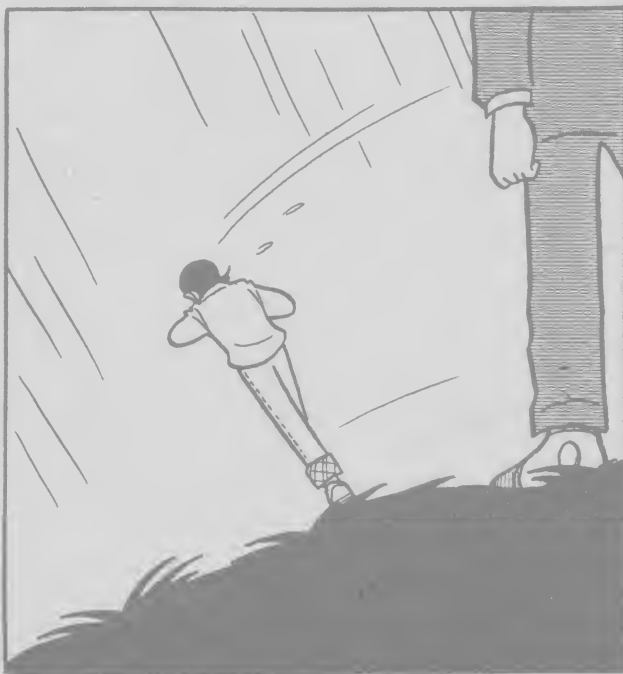
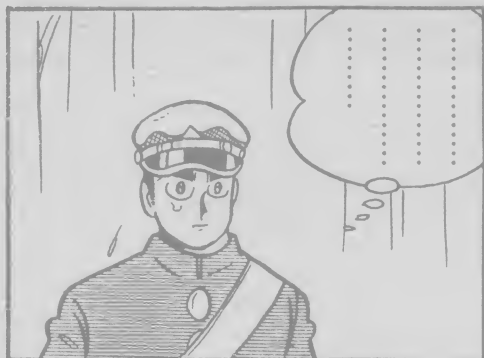
〃おおぞらとざっそうのうた〃

S41. 10. 31～作品　　作・おがわ　あきら

あなたが私のことを本当にきれいだと思ったら私にキスをしてみてよ!!

えっ!?

できないでしょう!!

…………
ウウウ……
……

「君はなぜ弱虫なんだ!!
なぜ立ち上って闘おうとはしないんだ
部落は封建社会の中で楽をしようとした
連中が勝手に作り出したものじゃないか!!」

「そんな理屈をいっても貴方だって心の
どこかで私を軽蔑しているのよ」

「そんなてたらめな理由で君を軽蔑しない
さ、軽蔑するのはこんな制度を作って
多くの人たちを苦しめた奴らだよ!!」

自殺にはイチコロりンよ

ブオオオオ

私
いかないわ!
学校があるから……

あんな学校いってもしょうがないさ
青春を楽しむんだえ……

もうあなたたちとはつきあわないわ
いってよ!!

まあせいぜい勉強するんだな!
ブルルル
ルンルン
ハッハハハハハハ……

あなたたちには絶対まけないわ!!

ドドド

雨よ ふれっ もっと ふれっ!!
ドドドド…
ザーッ
ザーッ

ザザーッ

身分も
貧しさも
みんな
洗いながして
しまえっ!!

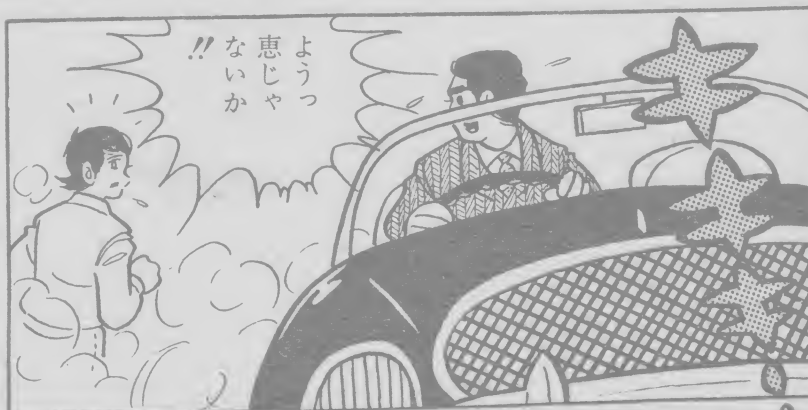
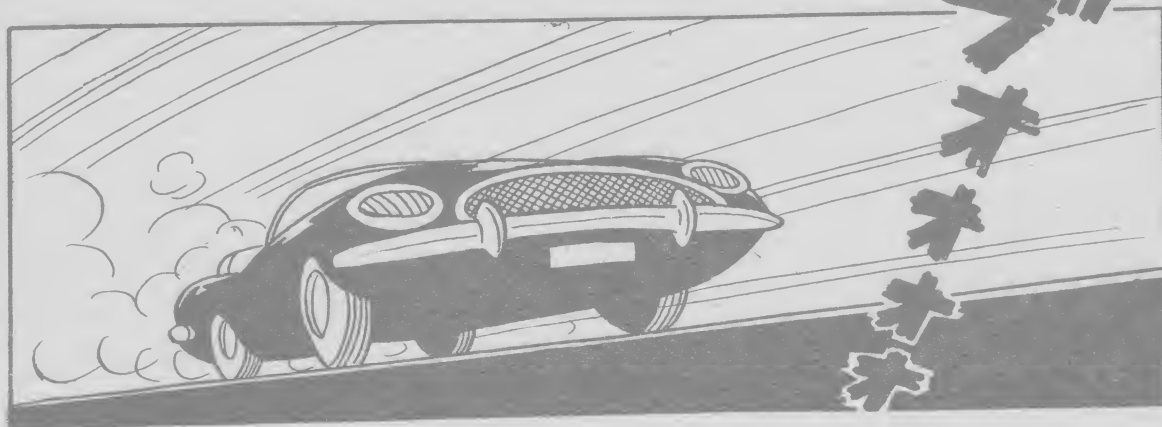
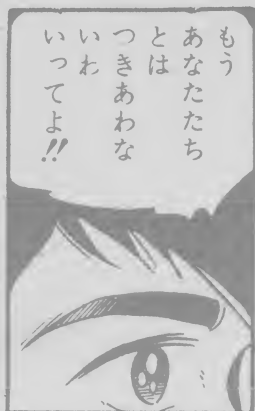
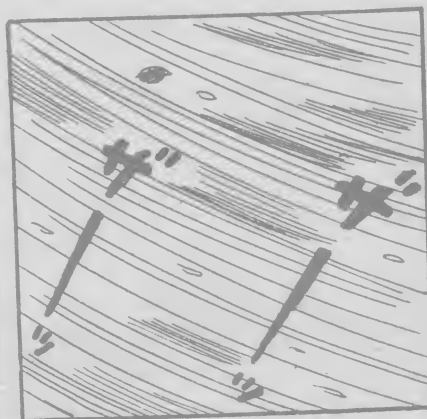
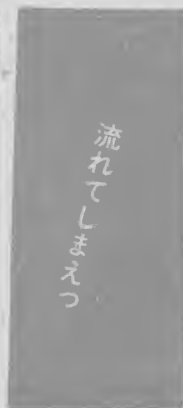
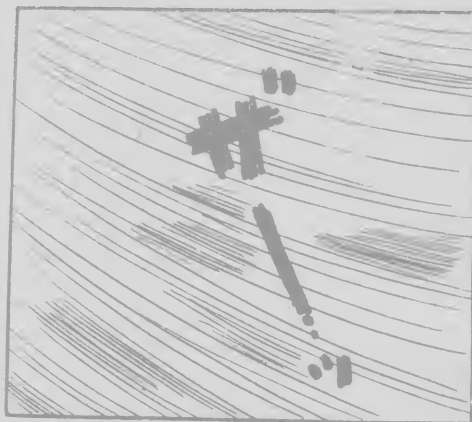
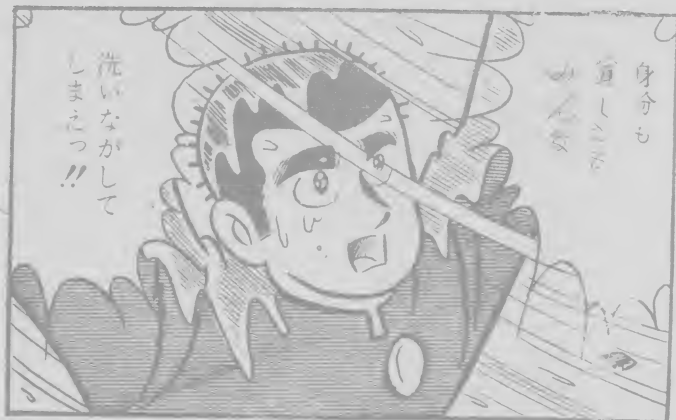
流れてしまえっ

流れてしまえっ

流れてしまえっ

流れてしまえっ!!

ハッ
ユメか!!

……………

なぜ
あんな夢を
見たのだろう
……………

僕の心のどこかに
あのような気持ちが
あるからだろうか
……………

高堂くん……
進学問題にしても今の
剛田くんの問題にしても
国の機構がこうなっている以上
校長先生や寺賀さんばかりを
一方的に責められないいんじゃ
ないかな……………
僕たちも校長たちも
結局は檻の中にいる
猿に
すぎないいんだよ

「お兄ちゃん
お金持ちって幸せなのね
だって病気したって何も心配しなくて
いいんだもん………」
「お母ちゃんなんか
いつもお金とお米の心配して
いるのよ」

あんたは
子供だから
お金の本当の
値打ちがわから
ないんだ

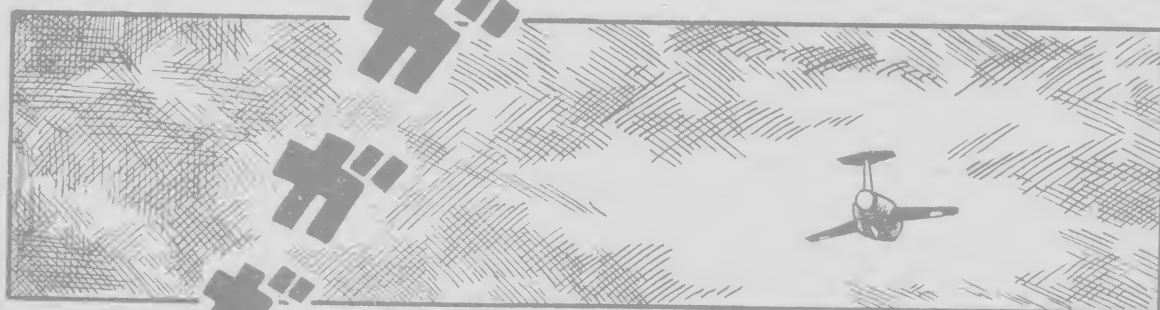
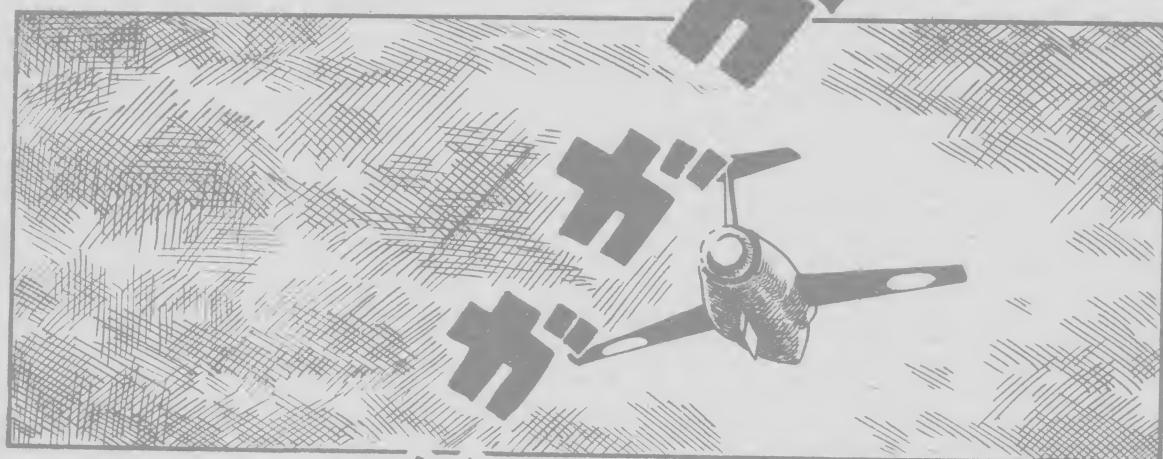
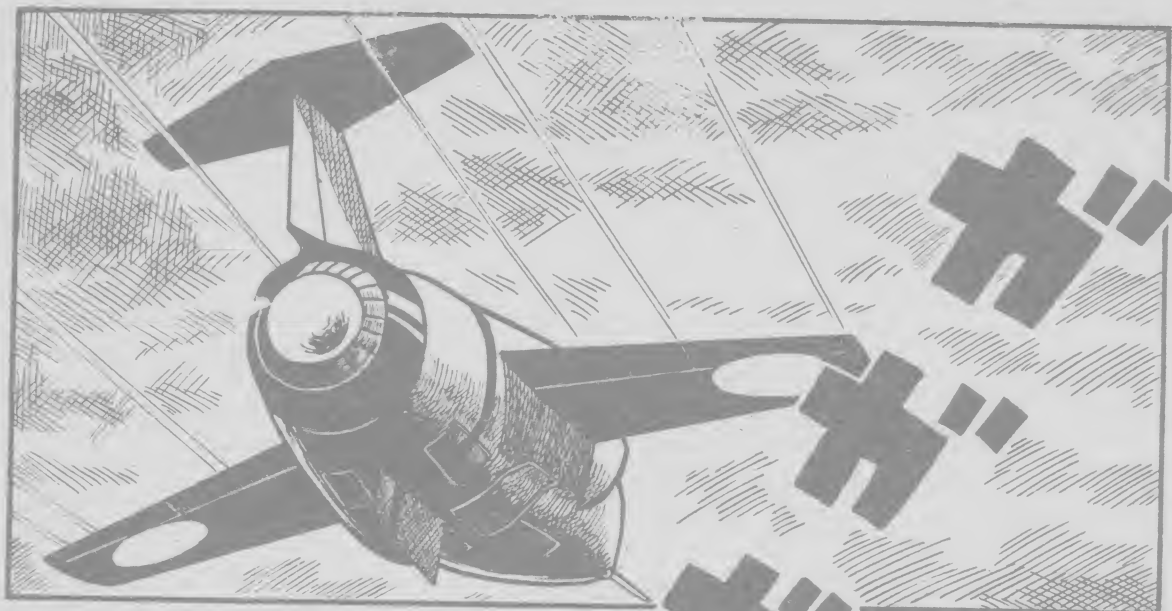
人の命だって
なんだって
金だよ
金、金、金、
カネ、カネ……

戦争なんて
もう日本で起こりっこ
ないよ
もし起きたら？
その時はその時だよ

俺たちは
その日その日を
ただ楽しく過せ
たら
それでいいんだ
よ！

「高堂さん
貧しさに負け
ないで
いつまでも強く
生きてね……」

「もちろんさ
でも………」

ガガガガガガガガ・・・

"大空と雑草の詩" 第九話 〈昭和41年11月13日完成〉

「大空と雑草の詩」反省

約一年間、夢中でこの作品を書いてしまった。丁度僕の一番苦しいスランプとぶつかり、途中で迎えた二十才……一番想い出に残る作品となりました。

もっと深みのある作品にしたかったのですが、出来上ったのはこんなものでした。作者の不勉強を反省している次第です。しかし、一番苦しい作品だったのですが一番勉強になった作品でもあります。

多くの若い方の意見を投書によって知ることが出来たからです。中には十数枚の便箋に詳しく意見をのべて下さった方や、わざわざ資料を送って下さった方もありました。ここで皆さまに深くお礼を申し上げます。

主な投書を左に掲載しました。

（文は略してあります）

◆僕は生活ってのは結局、弱肉強食だと思うのです。だから貧乏人はそれだけの頭しかないのです　貧乏人は麦を食え……ってのは当然の事です

（浅丘春樹・東大文Ｉ）

◆今はある無線会社に勤めているのですが労働者は三千人いても労働組合が弱く、政治闘争は一切やりません。経済闘争もへっぴり腰でやる為要求の半分しかとれずひどいものです。しかし最近今の人民を苦しめているのが、米日独占資本であることが判ってきたのです

（村田美喜男・東京）

◆本当に農業労働は大変なものです。故郷で懸命に牛の世話をし、田を調べ、畑をたがやしている父母を思う時、僕はエレキにしびれ、ビートルスに酔っている娘に一日でも、のら仕事をさせたい衝動にかられます。家ではそれこそ食事をする時間もないほど忙しいだろうと考える時、ネムイ目をこすりながら「毎日洗たく物が多くて困りますわ」とホヤイている女を見ると嫉妬といきどおりていっぱいになる。我々の目から見れは遊ころみて物価高をこぼしている女たちを村へ連れていって、にわとりもいる、牛乳も飲める、野菜畑もあると言っても、すぐさま町の嫌な生活が恋しくなるからである。

〈稲葉弘昌・東京・受験生〉

私はこの作品を書きながらエレキやモンキーダンスに没頭している若者ばかりで無い事をハッキリ知りました。

昭和四十一年十一月・作者

この作品に対する批評や青春漫画に対する意見をお知らせ下さい

〈送り先〉

金沢市額新保町84－49の5

小川晃宛